

ちよつとしい話

～ 投 身 ～

本四国八十八ヶ所は、弘法大師様の^{じせき}事績を^し偲びその場所ごとにお寺が建立され、お大師様の^{りやく}利益ある^{えんぎ}縁起が史実として示されています。凡夫の我々がその余徳を頂き、それぞれが抱く問題の解決に向けて何らかのヒントを得るための参拝、又、^{ゆいぶつ}唯物から^{ゆいしん}離れ^{たくさん}唯心に至る過程の人々も^{たくさん}沢山みえる事でしょう。特筆すべき霊場の中の一つに、「^{しゅしやかじ}出釈迦寺」があります。霊場の中にあつて、唯一弘法大師様が^{幼少}の^{みぎり}砌に身を以てある決断をされたお寺です。前には標高500m弱の山（^{がはいしざん}我拝師山）があります。弘法大師様が七歳の時、ある^{ほつがん}発願をされ、この山にお登りになりました。ある発願とは、「^{かな}仏門に入って、多くの人々を救いたい。この願いが^{かな}適えて頂けるなら、^{かな}釈迦如来現れたまえ。もし願いが^{かな}適わないのなら、一命を捨ててこの身を諸佛に供養します。」この^{たいがん}大願を胸に、我拝師山の断崖から身を投げたのです。この時、釈迦如来と天女が現れて雲上に大師を抱きとめました。一命を賭けての我々^{しゅじょうさいど}衆生済度の大願がお釈迦様に認められたのです。現在でも、山頂近くに奥の院としてお堂があり、投身されたとされる場所もあります。奥の院へ参拝しますと、その昔同じ場所に弘法大師様が悲壮なる覚悟で^{たたず}佇んでみえた靈気をひしひしと感じられます。七歳という年齢にこだわることなく、受ける事の出来る^{かんめい}感銘は一人一人異なって当然なのです。各人の事跡が^{もうねん}妄念から離脱することを妨げることが多々あるとは思いますが、輝く未来を願うなら、我々は^{すみ}速やかに唯物から唯心に向けて歩みを進めなくてははいけません。弘法大師様を^{した}慕つての巡礼者が^{した}沢山みえるのを、喜ばしく思うものです。佛の教えに^{したが}随う者にとって、身分の^{きせん}貴賤無く、貧富の差無く、平等に道は開かれているのです。